

白山市の発表者⑥の報告を聞くレッテンバッハ村の視察団＝白山市白峰の白山国立公園センターで



まきストーブで融雪実験 再生エネ発電量村二つ分

地域資源を使ったまちづくりに
ついて学ぶため、ドイツ・レッテ
ンバッハ村の視察団九人が七日、
白山市白峰地区を訪れた。白山国
立公園センターであった交流シン
ポジウムでは、市と村の代表者が
互いの活動を発表し合った。

・シンポジウムで白山市側は白峰
・桑島の両区長や旅館の代表者ら

五人が発表。まきストーブのポイ
ラー熱を使った融雪実験や、市の
木質バイオマスストーブの設置補
助などを説明した。白山ふもと会
の有本勲さん(三三)は、地元で駆除
したイノシシの特産品化について
「農家の獣害対策や市民への問題
認知にも役立っている」と話した。
レッテンバッハ村のウィルヘル

白山市と独視察団シンポ

ム・フィッツシャー前村長は、村が
取り組んできた再生可能エネルギー
への転換を紹介。「太陽光やバ
イオガスを使った発電量は、村二
つ分に相当するほどだ」と述べた。

視察は再生可能エネルギーを活
用する自治体の事例を学ぶ目的
で、ドイツ大使館などが主催し
た。一行は七日に間伐材をまきに
加工する作業を見学した。八日は
七ヶ用水の水力発電などを視察
し、九日には上智大(東京都千代
田区)で報告会が開かれる。

(谷口大河)